

分野:器官系統病態学

主科目 副科目	乳腺腫瘍学 Breast oncology	区分	選択必修	授業形態	演習 (講義・実習含む)
------------	--------------------------	----	------	------	-----------------

担当	教授	准教授	講師	助教	客員教授・その他
板橋	◎神野 浩光		飯沼 久恵 (兼・医療共通・准教授)	松本 暁子	
-					
-					

	乳腺腫瘍学Ⅰ (1年次)				乳腺腫瘍学Ⅱ (2年次)				乳腺腫瘍学Ⅲ (3年次)			
	単位	4単位	配当年次	1年・通年	単位	4単位	配当年次	2年・通年	単位	4単位	配当年次	3年・通年
概要	乳癌を広い視野より研究し、全人的立場より診療する医師を育成することが基本目標である。講義・演習では各乳癌診療に共通して必要な基本的知識・概要(生理、疫学、解剖、病理、分子生物学的背景)を学ぶ。実習では乳癌を中心とした乳癌疾患診断(触診、マンモグラフィ、乳腺MRI、CTの読影、乳腺超音波、穿刺細胞診、針生検、マンモトームなど)の手技を習得する。検査結果の解釈・読影が理解できるようにする。				専門的技術の修得と、臨床的課題に立ち向かえる研究者としての基本的要件の修得を目的とする。講義・演習では乳癌の疫学、診断、治療、EBMの概念を学ぶ。臨床症例カンファレンス、抄読会に参加する。実習では乳癌を中心とした乳癌疾患診断(触診、マンモグラフィ、乳腺MRI、CTの読影、乳腺超音波、穿刺細胞診、針生検、マンモトームなど)の手技を実践する。チーム医療の実践。患者・家族とコミュニケーションし、治療方針を適切に説明する。				幅広い知識、技術と乳癌専門医資格取得に必要な要件を修得させる。また、各種の解析技術を導入して、乳癌を直接の対象とした、本態解明および診断ならびに治療にかかわる研究を行う能力を修得させる。講義・演習では乳癌の疫学、診断、治療について習熟する。臨床症例カンファレンス、抄読会に参加し、自分の考えをまとめて発表する。実習では乳癌を中心とした乳癌疾患診断の手技を熟成させる。乳癌の術式適応を判断し、乳癌の手術が的確に行えるとともに、術中・術後の合併症に対応できる能力を身につける。病理報告をもとに、術後の治療計画が立てられるようにする。			
到達目標	①乳癌疾患に関する基本的知識・概要(生理、疫学、解剖、病理、分子生物学的背景)を説明できる。 ②乳癌を中心とした乳癌疾患診断(触診、マンモグラフィ、乳腺MRI、CTの読影、乳腺超音波、穿刺細胞診、針生検、マンモトームなど)の手技が行える。 ③検査結果の解釈・読影が理解できる。				①乳癌の疫学、診断、治療、EBMの概念を理解できる。 ②乳癌を中心とした乳癌疾患診断(触診、マンモグラフィ、乳腺MRI、CTの読影、乳腺超音波、穿刺細胞診、針生検、マンモトームなど)の手技が行える。 ③乳がん検診が行え、自己検診の指導ができる。 ④チーム医療を実践できる。 ⑤患者および患者家族とコミュニケーションし、治療方針を適切に説明できる。				①乳癌の疫学、診断、治療を習熟し、臨床症例カンファレンス、抄読会で自分の考えをまとめて発表できる。 ②乳癌を中心とした乳癌疾患診断の手技が行える。 ③乳癌の術式適応を判断し、乳癌の手術が的確に行えるとともに、術中・術後の合併症に対応できる。 ④病理報告をもとに、術後の治療計画が立てられる。 ⑤乳腺外科における最新の情報を生産し、学会等で発信できる。			
事前事後学修	指定した教材の関連部分を事前に学習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。 1回の授業に対して、予習・復習それぞれ30分程度が必要である。				指定した教材の関連部分を事前に学習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。 1回の授業に対して、予習・復習それぞれ30分程度が必要である。				指定した教材の関連部分を事前に学習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。 1回の授業に対して、予習・復習それぞれ30分程度が必要である。			
評価方法	受講態度(発表・課題提出など) 40% 成果物(レポート) 60%				受講態度(発表・課題提出など) 40% 成果物(レポート) 60%				受講態度(発表・課題提出など) 40% 成果物(レポート) 60%			

■主な演習(講義・実習含む)

	乳腺腫瘍学Ⅰ (1年次)	乳腺腫瘍学Ⅱ (2年次)	乳腺腫瘍学Ⅲ (3年次)
板橋	火曜日 14 : 00 ~ 17 : 00 超音波検査・読影	火曜日 14 : 00 ~ 17 : 00 超音波検査・読影	火曜日 14 : 00 ~ 17 : 00 超音波検査・読影
	火曜日 17 : 30 ~ 19 : 00 臨床症例カンファレンス	火曜日 17 : 30 ~ 19 : 00 臨床症例カンファレンス	火曜日 17 : 30 ~ 19 : 00 臨床症例カンファレンス
	水曜日 8 : 00 ~ 9 : 00 抄読会	水曜日 8 : 00 ~ 9 : 00 抄読会	水曜日 8 : 00 ~ 9 : 00 抄読会
	金曜日 9 : 00 ~ 17 : 00 手術	金曜日 9 : 00 ~ 17 : 00 手術	金曜日 9 : 00 ~ 17 : 00 手術
	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :
	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :
	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :

教科書・参考書

「乳癌診療ガイドライン2015年版」日本乳癌学会編(金原出版)、「臨床・病理 乳癌取扱い規約」日本乳癌学会編(金原出版)、「乳腺腫瘍学」日本乳癌学会編(金原出版)

その他履修上の注意事項

- ① 第1学年にあつては、副科目として関連領域(上部消化管、下部消化管、肝胆膵外科、呼吸器外科など)を一定期間履修することができる。
- ② 第2、3学年にあつては、指導医のもと病棟主治医としてベッドサイド教育、他科からのコンサルテーションを履修する。同時に講義(木曜、水曜/抄読会)、実習(火曜;超音波、水曜;マンモグラフィ)、演習(火曜;臨床症例カンファレンス、水曜;外来実習、木曜;病棟総回診、金曜;手術実習)を修学する。
- ③ 原則病棟主治医を離れ、講義、演習、実習、外来実習にて臨床経験を継続するとともに、指導医のもとに実験/研究に従事し学会発表等を行う。
- ④ 第3、4学年にあつては、指導医のもとに学部学生、研修医の指導を行うことができる。
- ⑤ 4年間のうちに共通科目「腫瘍治療学特論」を履修する。
試験やレポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

関連科目	副科目	人体病理学・病理診断学、臨床腫瘍学、放射線診断学・放射線腫瘍学、肝胆膵・移植外科学、上部消化管外科学、下部消化管外科学、呼吸器外科学など関連領域を3か月コースあるいは講義・演習コースにて履修する。
	共通科目	腫瘍治療学特論、腫瘍内科学特論、外科学概論(必修)

関連する専門医資格

外科学会専門医(日本外科学会)・・・認定施設での経験5年、他 <http://www.jssoc.or.jp/>
 乳腺認定医(日本乳癌学会)・・・会員歴4年、経験2年、他 <http://www.jbcs.gr.jp/>
 乳腺専門医(日本乳癌学会)・・・会員歴5年、経験5年、他
 マンモグラフィ読影認定医(日本乳がん検診精度管理中央機構) <http://www.qabcs.or.jp/>

キャリアパス(モデルコース)

